

写真番号	タイトル	画像	説明文
BR01	サントス港		ブラジルの表玄関にあたるサントス港は、代表的な農産物コーヒーの輸出港として世界に知られているが、他方ブラジル移住者の下船港として関係者に親近感がもたれている。この港で下船した日本人移住者は、戦前戦後を通じて約23万人に達し、かれらの子孫を含めた50万の日系人はブラジル国の信用を獲ちとりブラジル社会に融け込んでいっている。
BR02	下船風景		移住者がサントス港に入港すると、本船上で入国の諸検査が行なわれるが、税関側の許可が下り次第携行荷物の陸揚げと検査場への搬入が始まる。ブラジル入国の第一歩は税関検査場へ赴くところから始まっている。
BR03	移住者の家		日本人移住者入国50年の記念事業の一つとして昭和33年に日本政府の補助金と在伯先輩移住者の拠金により設立されたものである。税関検査場から約500米の距離にあって移住者の休憩や宿泊等、初期の援護を行なうために利用されている。
BR04	サンパウロ市		人口約450万を擁するサンパウロ市は、ブラジル産業、経済の動脈であり心臓部に当たるが、その昔、運河の役目を果たした川、お茶の栽培地(お茶の水橋附近)は、サンパウロ市の中心地となっている。
BR05	デパート		この有名なマツピンデパートでは、家具及びテレビの売出を宣伝しているが、19回毎月等額払と立看板をだしているとおり月賦販売にも力を注いでいる。物資が豊富で長期の月賦販売が行なわれているがブラジルのインフレが経済発展途上のひずみとも考えられ、われわれの知るインフレとは根底から異なっている。
BR06	市内電車		市が経営している電車には、写真のような側面のない型の電車も運行されており、空いたところへ直接乗り込める便利さもあって多いに利用されている。市内見物に、電車を利用するのはまことに好都合である。

写真番号	タイトル	画像	説明文
BR07	宝石店		<p>ブラジル在住の日系人は約50万、この8割がサンパウロ州に住み活躍しているが日系人の生活力は農業のみでなく知識階層のあらゆる分野に伸び、サンパウロ市の中心街に堂々たる店舗をはって商業活動に従事している者も多い。</p>
BR08	日本映画の上映館		<p>庶民の娯楽方法の一つに映画鑑賞があげられるが、ニテロイ、ニツポン、日活、ジヨイア等の映画館は、日本映画を上映しており日系人をはじめ、多くのブラジル人ファンを楽しませている。</p>
BR09	コチア産組鶏卵倉庫		<p>コチア産業組合は1927年に創立され、サンパウロ州を始め、ブラジルの各地に活動範囲がおよび、30カ国以上の外国人組合員を網羅し鶏卵のみでも年間取扱実績は10,810,954打(1957年度)と南米第一の組合を誇っている。</p>
BR10	ブラジルトヨタ自動車		<p>1958年1月サンパウロ市の近郊に進出したトヨタ自動車会社は、ドイツ、アメリカ等より進出の自動車メーカーの間隙を縫う製作品目に目をつけランドクルーザーの製造を開始し順調な発展を続けている。</p>
BR11	鐘紡ブラジル(株)		<p>1956年サンパウロの郊外、サンジョゼ・ドス・カンポスに進出した鐘紡は、確固たる基盤をブラジル紡績界に築き、綿紡、綿糸の生産は1962年現在既に2100s.t.に達している。</p>
BR12	操糸作業		<p>糸ぐちが見つかった繭を数個選んで、それらの糸を合わせ、操糸機にかけて、操糸する。</p>

写真番号	タイトル	画像	説明文
BR13	メカニカペサーダ(株)		<p>ブラジルの工業開発化の速度は目覚ましく、その原動力は外国より進出した企業に負うところが大きい。メカニカペサーダ社も外国より進出した企業であるが、日本より18名の技術移住者が就労している。</p>
BR14	工場内部		<p>作業環境は、日本の工場と余り差がみうけられないが、外国製の工作機械が多く入っていたり工場内での作業会話もブラジル語(ポルトガル語)であるため、慣れるまでの2~3か月間はとまどうこともあり得よう。</p>
BR15	ヤドヤ兄弟(株)		<p>宿屋兄弟(忠入氏、精七氏)は、ヤドヤ商工(株)と、ヤドヤ鑄機(株)の二社を経営しているが、日系人の地場産業として、鑄物界でも特異の存在として認識されている。</p>
BR16	通勤用バス		<p>パルメイラス・マシン(株)は、1952年にサンパウロ州カンピーナス市に創立されたアメリカ系の会社であるが、給与体系が職務給的要素の強いブラジル社会にあつて、福利厚生面の強化に意欲を注ぎこんでいる。交通費補助の面と生産意欲の面より入社時退社時の労働者を貸切りバスで送迎したり、ブラジル人の中で成績のよいものをアメリカへ留学させる等も実施している。</p>
BR17	憩いの一時		<p>ブラジルでは、週5日制を採用している事業所が多いが、週6日制のところでも週の労働時間は48時間となっている。始業時間は午前7時~7時30分が多く、終業時間は午後5時30分~6時20分が多い。昼食時の休憩時間は1時間~1時間半が多いが、これらの休憩時間は、フットボールに興じたり、憩いの一時を工場内又は近くの公園にて過ごすこともある。</p>
BR18	社宅		<p>職務給であることの悪い一面は、良い条件高い賃金を求めて労働者が移動することにあるが、福利厚生面での企業家側の努力がわが国程行なわれていないため、労働力の流動性が激しい。</p>

写真番号	タイトル	画像	説明文
BR19	ブタンタン毒蛇研究所	 <p>海外移住資料館所蔵</p>	<p>サンパウロ市を訪問する内外人は必ず第一に見学する程、世界的に有名な研究所である。毒蛇研究所と通称されているが、実体は、細菌学、免疫学を主とする病理学、生物学、薬化学、解剖学などの総合研究所であり、又大製薬所でもある。製品は毒蛇その他の血清、天然痘などの予防ワクチン、解毒剤などである。見学者は毒蛇の飼育場を見学し、更に日によっては毒液の採取血清製造</p>
BR20	フェイラ・リープレ	 <p>海外移住資料館所蔵</p>	<p>ブラジルの各都市では週に何回か決った場所にフェイラ(自由市場)がたつ。フェイラでは野菜、果物、食料品、雑貨、日用品等の露店がならび、主婦達はここで何日分かの食料品をまとめて買う。</p>
BR21	フェイランテ	 <p>海外移住資料館所蔵</p>	<p>市場に出る商人のことをフェイランテといい、日系人の進出が目立っている。特に野菜売りは日系人に圧倒的に多い。</p>
BR22	養蚕(1)	 <p>海外移住資料館所蔵</p>	<p>バストスは戦前ブラジル拓殖組合が開いた移住地でここには約600家族の日系人がいる。バストスの産業で見のがせないのは盛んな養蚕で、ブラ拓製糸会社が操業している。</p>
BR23	養蚕(2)	 <p>海外移住資料館所蔵</p>	<p>バストス、レジストロ地区の養蚕は年間7~8回掃立てができる。養蚕農家は製糸して販売することもあるが、大部分はマユのママ製糸会社に販売する。</p>
BR24	養蚕(3)	 <p>海外移住資料館所蔵</p>	<p>この地域で生産された絹糸は主として布地に織られ、女性の洋服、ネクタイ、Yシャツ等の衣料となり、相当高価な値段で市販されている。</p>

写真番号

タイトル

画像

説明文

BR25	柿		<p>イタケーラはサンパウロ市の近郊の日系人の集団地で桃、柿の産地として知られている。柿は日本人がブラジルに移入した果物で、ブラジル人達にも盛んに賞味されている。</p>
BR26	茶摘み		<p>レジストロはお茶の産地でブラジルの全生産量のほぼ90%をここで生産している。お茶は60%が国内消費40%が輸出され、主な輸出先は北米、チリ、ウルグアイ、アルゼンチン等である。</p>
BR27	ブドウ園		<p>ブラジルのブドウ栽培は年々盛んになりつつある。特にパラナ州が盛んで、従来、コーヒー栽培は降霜の害を受けたり、又価格の変動が激しかったこと等により農家が漸次多角安定経営を目指して生食用、加工用等の各種類がとり入れられている。</p>
BR28	リオのカーニバル		<p>ブラジル人が最も熱狂するのはサッカーとカーニバルである。カーニバルには3日3晩踊りぬくといわれ、中でもリオのカーニバルは国際的に有名で、この時は世界中から観客が集まってくる。</p>
BR29	コーヒーの収穫		<p>コーヒーの収穫期は5月から9月頃まで続く。地面に落されたコーヒーの実は土砂と実とに写真のような篩にかけて選り分ける。</p>
BR30	コーヒーの植付け		<p>見わたす限りのコーヒー畑もこのようにして1本1本植え付けられていく。コーヒーは1アルケール(約2.5町歩)に約3,500本程度植えつけることができ、大体4年目から収穫が始まる。</p>

写真番号	タイトル	画像	説明文
BR31	コーヒー園の山たて		<p>コーヒーの収穫に備え、4～5月にかけてコーヒーの実を集めやすいように山たてを行なう。これはコーヒーの収穫が終る9月頃には再び樹の下にまき散らされる。これを山散らしという。</p>
BR32	棉摘み		<p>サンパウロ州パラナ州では棉作も盛んである。棉摘みは2月末頃から始まるが、この時期には人手を多く必要とし、ブラジル各地から労働者が集ってくる。</p>
BR33	ユーカリ		<p>ユーカリは成長が早く、又用途も薪炭、建築材、家具材、パルプ用と広いのでパラナ松、アメリカ松と並んで最も植林が盛んである。</p>
BR34	播種		<p>ブラジルの大農場を除く中、小農場も近年大農機具が導入されているが、まだまだ写真のように馬を使って種播きをする農家も多い。</p>
BR35	小学生		<p>ブラジルの農村はかつて文盲率が非常に高かったが教育が重点施策となってからは年々文盲率が低下している。小、中学校の制服は写真のような白い上っぱりである。</p>
BR36	農村風景		<p>サンパウロ市の近郊やサンタ・カタリーナ州等の高原地帯には写真のような風景のところが多い。山あり、谷間の盆地ありで一瞬日本的な感じがする。どこへ行っても村の中心には立派な教会がある。</p>

写真番号

タイトル

画像

説明文

BR37	簡易温室栽培		<p>都市近郊の農村では早期栽培をして出荷するため写真のようなビニールの簡易温室栽培法が行なわれ相当な収益をあげている。</p>
BR38	馬鈴薯栽培		<p>ブラジルにおける日本人の馬鈴薯栽培は有名で、特にパラナ州のカストロには日系の大規模栽培地として名高い。写真はサンタ・カタリーナ州のラーモス移住地の種薯栽培地である。</p>
BR39	桃園		<p>サンタ・カタリーナ州の日系人の経営する果樹園である。ラージェス・クリチバーノス地方は温帯果樹の適作地でリンゴ等も有望視されている。</p>
BR40	梨園		<p>ここでは洋梨も見事な成長をみせている。洋梨の生産はサンパウロ州でも殆んどが日系人の独占場で、日系人により新しい作物がどんどん試作されている。</p>
BR41	入植第一歩		<p>サンタ・カタリーナ州ラーモス移住地へ入植する第一陣がトラックで到着した、こゝから開拓の第一歩がはじまる。新住宅の後には南パラナ、サンタ・カタリーナに特有なパラナ松がみえる。</p>
BR42	サルバドール		<p>バイア州の州都サルバドールは、ポルトガルが初めて永久植民地を建設したときの中心地で1763年に首都がリオデジャネイロに移されるまでブラジルの首都であった。又市街を結ぶエレベーターとケーブルカーが設けられている。</p>

写真番号	タイトル	画像	説明文
BR43	市場		バイア州には全ブラジル第1位をしめる農産物が数種類ある。ココア、ひま、マンジョカ、バイアヤシ(ココヤシ)その他果樹類。羊らばの数も全国第1位である。
BR44	トマト栽培		イツペラ・クビチェック等の移住地で活躍する日本人は人口約95万を有するサン・サバドール市の生鮮食料品供給者として着々と実績をあげている。
BR45	ココヤシ		ココヤシはブラジルではバイアヤシと呼ばれ日本人移住地でも近年栽培されるようになった。
BR46	ブラジル北東部の日本人(1)		レシフェ市、ナタル市を中心として日本人の移住地が散在しているが20～30家族の小さい移住地が多い。しかしすでにそ菜類の栽培で有名になり、パッションフルーツそのほかの産物等、都市向けの出荷で安定、発展しつつある。
BR47	ブラジル北東部の日本人(2)		これらの移住地の主産物としては棉、サイザル麻、果実、ひま、豆類、マンジョカ、米、とうもろこし等であるが、これに加えてトマト、西瓜等の野菜類とココヤシ、ババスヤシを栽培、生活も安定期に入りつつある。
BR48	ベレン市(1)		アマゾン河口から120Km上流の南岸にあるベレン市はパラ州の首都で人口約32万人、アマゾン地域の経済中心地である。

写真番号	タイトル	画像	説明文
BR49	ベレン市(2)		ベレン市はけっして良港とはいえないが、流域の生産物の大半がここから輸出され必需品の大部分が一度はこの港に陸揚げされる。
BR50	マナウス市		アマゾナス州の首都であるマナウス市は人口約9万人、市立劇場には大理石が使用され、かつてのゴムブーム時代のはなやかさを物語っている。現在は各種産物の集荷地として、又ブラジル奥地の交通基地となっている。
BR51	トメアス移住地		ベレン市からパラ川をさかのぼり、支流アカラ川に入るとその西側にトメアス移住地が広がっている。
BR52	移住地の飛行場		ベレン市との交通は船便が主体で殆んど生産物や消費物資は船が利用される。又航空機の利用盛んでセスナ機が一日4~5往復運行されている。
BR53	トメアス産業組合		この移住地は1929年に開設され、長い間の苦難時代ののち、1945年ごろからピメンタ栽培に成功した組合員は約250家族が活躍している。
BR54	住宅		密林に囲まれたピメンタ園、その間に点在する近代的住宅、新型の乗用車、出荷のための飛行場など、アマゾン流域でただ一つのデラックス移住地である。

写真番号	タイトル	画像	説明文
BR55	第2トマス移住地の造成(1)		トマス移住地の隣りにあるこの移住地は面積25,800ヘクタール600家族のピメンタ移住地として開設、造成されている。
BR56	第2トマス移住地の造成(2)		移住地の道路はブルドーザによって原始林を伐開し、グレーダーを使って測溝を掘り、雨量を勘案した完全な造成が行なわれる。
BR57	ピメンタ用支柱(1)		ピメンタ用支柱(エスタッカ)は山焼、整地の頃から準備を始める。ピメンタの樹齢は15年位であるため支柱はアカプー等の腐りにくい木が利用される。
BR58	ピメンタ用支柱(2)		アカプー等の木を3mを残して埋め、表土を根元に盛りあげておく。支柱間は約3m間隔がふつうで、1ヘクタールに約1,000本が植付けされる。
BR59	2年生ピメンタと支柱		ピメンタ収穫後の11月頃、成木から長さ30cm3節以上をつけ切断した挿穂を苗床に挿し、日覆をして随時灌水する。20～30日位でふつつ発芽し、12月～1月にかけて降雨のあと支柱の根元に移植する。
BR60	ピメンタ園		移植されたピメンタは2年目には開花し(開花期は大体1月)1株当り500～800gの収量があり、3年目には2kg前後、4年目には3.5～4kgの収量がみられる。

写真番号	タイトル	画像	説明文
BR61	ピメンタの収穫		<p>ピメンタの収穫期は6月中旬に始まり9月いっぱいかかるのがふつうである。ブドウ状の房に鈴なりになった果粒が、濃緑色に熟したものを採集する。</p>
BR62	ピメンタの乾燥		<p>白コショウは脱粒した後湯煎をせず袋またはタンクに入れ表皮を除去したものであり、コショウを袋等に入れて熱湯に浸けると濃緑色が真黒になる。これを黒コショウと呼ぶ。湯煎したコショウを白布に拡げて天日で乾燥、夕方になっても乾燥不十分なものは翌日また拡げて乾燥する。</p>
BR63	ガラナ		<p>滋強剤として有名でポン・デ・ガラナとピラルクの舌は切りはなせないもの、日本にも輸入されている。</p>
BR64	柑橘		<p>日本人移住者がアマゾン地域に移植した台湾産の柑橘は年々増植されている。</p>
BR65	クプアスーの実		<p>ジュースやアイスクリームの原料として栽培され、自家用、販売用に、その需要は非常に多い。</p>
BR66	そ菜の出荷		<p>野菜類は各種のものが栽培され、食膳をにぎわしていると共にベレンなどに出荷する。玉ねぎ、馬鈴薯等はサンパウロ方面から移入されている。</p>

写真番号	タイトル	画像	説明文
BR67	サイザル麻		<p>ピメンタの単作以外にとり入れられている繊維作物で1ヘクタール当り粗糸にして約600kg前後が生産される。この繊維は強靱で腐食せず、縄、網に編んで用途の広いものである。</p>
BR68	サイザル麻の剥皮		<p>収穫された麻は剥皮機にかけられ、粗繊維として出荷されるが、移住地においてはピメンタの若木と支柱との結繋用として利用されている。</p>
BR69	熱帯魚		<p>高拓出身の高世さんは熱帯魚の飼育と輸出で有名である。大アマゾン流域で採集される熱帯魚は世界的に珍しい種類が多い。</p>
BR70	明日のアマゾン		<p>ブラジル政府は憲法の定めるところに従ってその租税収入の5%をアマゾン開発のために使用することになっており、天然資源の開発と天産物の活用、特殊栽培植物の発見等が期待されている。</p>